

京都市ソーシャルイノベーション研究所 (SILK)

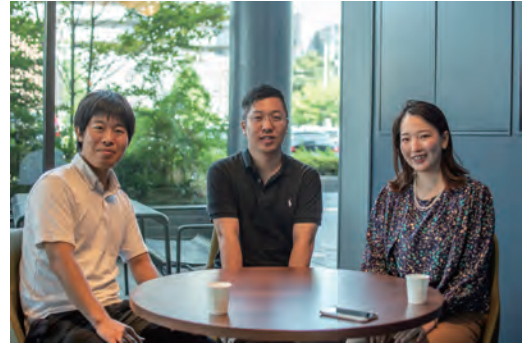
「これからの 1000 年を紡ぐ企業認定」のリニューアルと、事業アイデアコンテスト開始への思い

2022.09.22



SILK が創設時から続けてきた「これからの 1000 年を紡ぐ企業認定」。2015 年に第 1 回の募集を開始した頃を振り返ると、当時はまだ“SDGs”が世に出ておらず、ビジネスの現場で“社会課題”という言葉聞くこともほとんどありませんでした。ここ数年の社会の変化を受けて、企業認定の役割も変えていく必要があるのではないか……昨年は一度足を止め、制度のあり方を見つめ直す 1 年になりました。

SILK のメンバーがどんな思いで 2022 年度の「これからの 1000 年を紡ぐ企業認定」[SOCIAL INNOVATION Meets up KYOTO] を始めるのか、皆さまにお伝えできればと思います。



お互いに認め合って応援し合う

コミュニティを作りたい

— 今年「これからの 1000 年を紡ぐ企業認定」のプレゼンテーションが公開イベントになり、さらに事業アイデアコンテスト「SOCIAL INNOVATION Meets up KYOTO」を同日開催する予定です。まずは、事業アイデアコンテストを新たに始める目的を教えてください。

石井 「これからの 1000 年を紡ぐ企業認定」を 6 回やってきて、認定企業同士の横のつながりがすごくいいなと感じています。認定企業が計 28 社になって、色々な業種や規模が混ざって学び合うコミュニティができてきました。めざす未来に共通するところがあるので、一緒に社会を良くしていこうという空気が自然と生まれるんですね。事業アイデアコンテストを開催することで、この輪をさらに広げていきたいと思っています。

田中 コロナ禍で誰もがたいへんな状況になった時に、認定企業コミュニティの意義を改めて感じましたね。先が見えない中で、お互いに試行錯誤しながら掴みかけていることをシェアして、応援し合える場になっているなど。一方で社会全体の状況も変わってきて、多くの事業者さんが社会課題を意識し始めています。今後は裾野を広げる方に力を入れていきたいなという話は、メンバー間でもよくしていました。



石井 認定という仕組みの性質上、制度設計をしっかりと固めてから動かさないといけないので、運営する中で感じる疑問やモヤモヤもありました。京都市さんの行政としての思いもお聞きして、お互いの視点から意見を出し合って、所長の大室先生とも何度も話して……今のかたちに落ち着くまでにけっこう時間がかかりましたね。紆余曲折ありましたが、いい感じになったと思います。

木村 認定は、相談に来てもらって「めっちゃいい事業やし応援したい!」と思っても、条件に当てはまらないというパターンがどうしても出てきてしまいます。でも、今回の事業アイデアコンテストは、所在地や創業年数などの条件がないんです。この差は大きいですね。学生さんでも売上がなくても OK。私たちにとっても新しいチャレンジなので、ドキドキします。



田中 せっかく応募してくれた事業者さんを落とすたくないという気持ちは、すごくありました。伴走しながら何度も悔しい思いをしてきたから。これから必要なのは上からのお墨付きじゃなくて、まちで働く人、暮らす人がお互いに認め合って応援し合う関係性だと思います。だから、今回は認定や受賞までのプロセスもオープンにできたことはすごく嬉しいです。

木村 「これからの 1000 年を紡ぐ企業認定」のプレゼンテーションを皆さんに見てもらえると思うと、ワクワクしますね。今までは審査員の方々と私たち運営メンバーしか参加できなかったの。事業アイデアコンテストは、オーディエンスからの投票数で受賞者を決めることになりました。それぞれ「認定」「コンテスト」っていうかたちをとっているけど、どちらもコミュニティを作るための場なんだなって、話しながら改めて思いました。

石井 そうやね。オーディエンスの人も含めて、あたたかいコミュニティになっていくことを願っています。



まだ出会えていない人に出会いたい

—「これからの 1000 年を紡ぐ企業認定」**「SOCIAL INNOVATION Meets up KYOTO」**ともに、応募には推薦団体さんによる推薦書が必要なんです。

石井 これもコミュニティを広げていくための新しい試みです。SILK の役割を考えると、自分たちの手の届く範囲だけに留まっていたらだめなんです。京都のあちこちで根を張りめぐらせている皆さんと一緒に広げていかないと。SILK の周りには頼もしいパートナーがたくさんいるので、ちょっと気を抜くと、今ある関係性の中だけで色々な活動を完結できてしまうんですよ。だからこそ、推薦団体さんのお力を借りて、僕たちがまだ出会えていない人に出会いたい。

木村 支援機関の方々がソーシャルの分野に関心を持ってくださってる今だからこそ、できることですね。一緒にオープンデーを開催したり、イベントを企画したり、色々なかたちで連携が増えてきて嬉しいです。

田中 確かに、7 年前にはこの広がり方は考えられなかったと思います。変わるもんやね。



学生もいて、老舗も若手起業家も二代目もいる

—事業アイデアコンテスト**「SOCIAL INNOVATION Meets up KYOTO」**は、どんな人に参加してほしいですか？

石井 老若男女、幅広く！元気いっぱいに参加してもらえたらと思います。迷っている方も、とりあえず「SILK の相談会」に来てください。そこで話してみても、今回はコンテスト出場はやめておこうという結論になっても全然かまわないです。出場するしないに関わらず、私たちにできるサポートをさせてもらいます。

田中 事業がある程度かたちになってからでないと相談できないって思われる方が多いんですけど、アイデアだけでも大歓迎です。「頭の中のアイデアを解き放してみよう」ってフライヤーに書いてるし！色々な層の人が参加してくれたら嬉しいですね。学生もいて、老舗も若手起業家も二代目もいるみたい。

木村 オーディエンスでの参加もお待ちしています。ぜひ“推し”を探しに来てほしいです！推しの事業が増えると、生活が豊かになりますよ〜。当日は私と井上が司会をする予定なので、皆さんぜひ盛り上げに来てください！

話し手：SILK イノベーション・コーディネーター
石井 規雄、木村 響子、田中 慎

「これからの 1000 年を紡ぐ企業認定」
2022 年度募集開始



事業アイデアコンテスト
「SOCIAL INNOVATION Meets up KYOTO」
発表者募集



「これからの 1000 年を紡ぐ企業認定」
「SOCIAL INNOVATION Meets up KYOTO」
リーフレット (pdf)



お問い合わせ

京都市ソーシャルイノベーション研究所 (SILK)
TEL : 075-366-5527
MAIL : silk@astem.or.jp